

テルペン樹脂（合成）の安全性試験

（第1報）

——ラットを用いた経口急性毒性試験——

株式会社日本バイオテスト研究所*

中村 厚 天羽 修一

日本獣医畜産大学、家畜病理学教室**

磯田 政恵

株式会社ロッテ中央研究所***

山野 利幸 市東 武男

テルペン樹脂（合成）は α -ピネン、 β -ピネン、ジペンテンおよびその混合物などの重合体で、Fig. 1 に示した構造を有する淡白～淡黄色の透明なガラス状またはフレーク状物質である。本検体はベンゼンおよびヘキサンには可溶であるが、メタノール、エタノールおよび水に不溶である。テルペン樹脂（合成）はすでにアメリカおよびヨーロッパでは食品添加物として、酢酸ビニル樹脂、エステルガム、ポリイソブチレ

ン等とともにチューインガム用基礎剤として使用されている。わが国では接着剤などの身近な生活用品の工業用原料として広く利用されているが、現在わが国でも欧米諸国と同様にチューインガム基礎剤として利用の検討がなされている。そうした状況に対応するため、本検体の安全性試験を実施したのでその急性毒性試験の成績を報告する。

試験方法および材料

1. 使用動物

4週齢のWistar系ラット雌雄を静岡県実験動物農業協同組合から購入し、1週間試験環境で馴化した後、順調な発育を示し、異常のみられない動物を試験に使用した。試験開始時の平均体重は雄が105.0g、雌が89.0gであった。

2. 試験環境

動物は木製床敷を入れたポリカーボネート製ケージへ5匹ずつ収容し、温度 $24 \pm 2^\circ\text{C}$ 、比湿度 $55 \pm 15\%$ 、換気7回/時の環境で飼育し、飼料はオリエンタル酵母工業（株）製固形飼料MFを、水は水道水をそれぞれ自由に摂取させた。

3. 検体投与方法

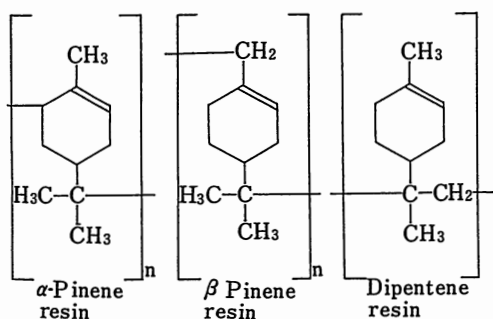


Fig. 1 テルペン樹脂の構造式

* 東京都国分寺市東戸倉 1-15-3 (〒185), 0423-21-0921

** 東京都武蔵野市境南町 1-7-1 (〒180), 0422-31-4151

*** 埼玉県浦和市沼影 3-1-1 (〒336), 0488-61-1551